

<添付資料> 城陽市認知症サポーター養成講座 ケーススタディ解答例

ケーススタディ①【「ごはんまだ？」】

○ 望ましい接し方：「お茶でも飲みますか？」「テレビを見て待っててね」

⇒ 他のことで気をそらすことが有効です。

「これから作るから、お皿を並べるのを手伝って」

⇒ できることをお願いするのも ○

× 望ましくない接し方：「さっき食べたでしょ、忘れたの？」「ちゃんと食べさせているでしょ！」

⇒ 否定するのは逆効果。ひとまず受け入れることが大切です。



ケーススタディ②【季節外れの服装】

○ 望ましい接し方：「こんにちは」「今日はどちらへお出かけですか？」

⇒ 必ず、正面から、ゆっくりと声をかけましょう。

<ポイント> 真夏や真冬のひとり歩き（徘徊）は、生命に関わる危険性があります。

可能であれば家族に連絡、緊急時は警察に通報しましょう。



ケーススタディ③【レジでの支払い】

○ 望ましい接し方：「ゆっくりで大丈夫ですよ」「いっしょに（小銭を）数えましょうか」

⇒ はっきり、大きな声で。聞こえづらい声では、不安をあおります。

ケーススタディ④【同じ商品ばかり】

○ 望ましい接し方：「食パンがお好きなんですか？」「ご家族で食べられるんですか？」

⇒ 行動自体は否定せず、まずは様子を見ましょう。

× 望ましくない接し方：「先ほども買っていましたよ」「そんなに買ってどうするんですか？」

⇒ 前回買ったことを忘れていたため、指摘されても混乱してしまい、

批判されたと勘違いして怒りの感情になる場合があります。



ケーススタディ⑤【財布を盗られた】

○ 望ましい接し方：「私はここを探すから、あのあたりを探してみてくださいる？」

⇒ さりげなく誘導し、なるべく本人に見つけさせましょう。

× 望ましくない接し方：「どこかにしまい忘れたんじゃないの？」「ほらここにあるでしょ」

⇒ 反論することで、かえって妄想が深まるため逆効果。

疑われたことに怒ったりせず、一緒に探してあげましょう。



※ あくまでこれらは一例です。必ずしも「こうしないとイケない」ものではありません。

本人の特性や本人との関係性・状況・環境などを踏まえ、できる範囲・できる対応で OK です。